

2020 年に向けた文化イベント等の在り方検討会 (第 1 回)での主な御意見

具体的な文化イベント等の提案

- ・ 世界の国々やアーティストと共同で新しい芸術や文化を作っていく機会とする。
- ・ 全国津々浦々で実施する文化プログラムのトータリティを示すため、巨大なシンボルやそれを動かしていくシステムが必要。例えば、巨大な人工島みたいなものをタグボートでけん引し、そこに劇場や美術館のような文化施設を備えた機能を持たせて、全国津々浦々の海を移動するプランなど。
- ・ 国際工芸デザインビエンナーレを実施するとともに、地域性を強く持った工芸やデザインのワークショップを全国で展開。
- ・ 文化のオールジャパンでナショナルチームを作り、世界的な賞（アカデミー賞やグラミー賞等）を日本人が総なめにするようなプロジェクトを実施。
- ・ 東京や日本だけを表現するのではなく、この地球上に生きている全ての人間社会というものがどこへ向かうのかということ、世界中の人がインパクトを持って受け取れて、新しい感性の改革、変革が起こるようなものとする。
- ・ ハンディキャップを持った子供たちも含め、全国の子供たちが参加する工作ワークショップを全国津々浦々でやり、子供たちが作ったものを 1 つの形にまとめ上げ、それで巨大なシンボルを作る。
- ・ 食文化、特に、発酵文化（酒、みそ、しょうゆ）を広める。

文化プログラムの育成・体制整備

- ・ 文化に興味がない人たちに手を広げていくことが文化の底力を上げる上で重要。そのためには、敷居を下げる工夫が必要であり、文化芸術を見せるときに多少のエンターティメント性があった方が入りやすい。
- ・ クリエーターが思い描く突拍子もないことが、ある程度現実化できるような、面白い仕組みを作る。
- ・ 地元の人だけでなく外から来た人とともに地域を盛り上げていく方法を考えることが必要。
- ・ 巻き込み力が重要。都市では、都市的なレベルの大きな祝祭的なイベントがあると同時に、地方では地元のおじさんが「しょうがねえな」と言っていて一緒にやってくれるような、様々なレベルの巻き込み力が重要。
- ・ 地域のメーカーの力を借りた参加体験を推進。
- ・ 首都圏の企業に地方でいろいろな支援を行ってもらおう。
- ・ 華道、茶道といった伝統的な生活文化を継承していくためには学校の授業で取り入れるしかない。この機会に学校現場とうまくリンクしながら、学校から発信していくと広がりがでてくるのではないか。
- ・ 一人一人がいろいろな国の人を迎えるための文化度を上げることが必要。

- ・ 文化庁が窓口となって、全国の自治体や民間企業と文化プログラムを盛り上げていく体制を整備。
- ・ 正式なボランティアだけでなく、多くの一般の人々が参加したと感じる体制ができれば良い。

文化プログラムに向けた環境整備

- ・ 東京五輪の開会式会場のお膝元である千駄ヶ谷・原宿を芸術文化特区に指定する。
- ・ 文化財に解説が付いていない、観光地でカードが使えない、外国人が使えるATMや英語のインフォメーションがない等について、訪日外国人の受入れ環境整備のために対策を講じる必要がある。
- ・ 外国人への日本語教育、訪日する外国人に対応するための英語教育の充実が重要。
- ・ 公共機関等で使用されている絵文字・記号（矢印など）で諸外国と違っているものについて統一するかが課題。
- ・ 日本伝統文化・工芸・技術の衰退にどう対応するか。衰退を食い止めるために文化的なものを買い支える仕組みを作ることが必要。
- ・ 表現の規制を緩める取組をしてはどうか。
- ・ 文化や観光を推進していく上でのボトルネックを掘り起こしていくことが必要。例えば、海外からだ大きな会社を通さないと宿の予約ができない、資格がないと観光ガイドができないといった点等。

文化プログラムに向けた発信強化

- ・ 全国に非常にユニークな文化があること、高齢者や障害者も含め皆が文化を自ら楽しんで非常に豊かで成熟した国を実現していることを世界に発信する。
- ・ 訪日外国人旅行者数を2000万人、3000万人にするためにはリピーターが必要であり、十人十色のリピーターを引きつけるためには、アニメや文化財等、一分野だけでなく全面的に推進することが必要。
- ・ 日本文化を紹介するに当たって、「軽いもの(例えば、お茶、お花、日本舞踊等6種類の日本文化を1時間で体験するもの)」と「本格的なもの」のどちらに力点を置くかについて、よく考える必要がある。
- ・ 訪日外国人旅行者の国別の分析調査が必要。
- ・ 訪日外国人旅行者がオリンピックの記念に思い出として持ち帰れる日本の独特のもの（浴衣、半纏（はんてん）など）を作れたら良い。
- ・ 文化プログラムを実施する上での「目的の明確化」が必要。数値目標や指標がないと進め方も違ってくる。
- ・ 地域に密着して工芸や文化に携わっている方は発信下手なところがあることから、代わりに科学的・論理的に説明できる人や場が必要。